

今を未来に

秋が深まり、インフルエンザの季節が目の前に。

朝晩の冷え込みには、秋の深まりを感じ、ストーブなどの暖房器具を出されたご家庭も多いことかと思えます。学校でもインフルエンザの流行に備え、休み時間の換気、こまめな手洗いとうがい、教室の中の湿度を保つことなどを、職員の方で確かめました。

ここ数年保々小ではインフルエンザの流行が他校より早かったり、罹患する子が多い傾向にあります。そこで、PTA会長にお願いをして、給食前に全員が十分な手洗いの後アルコール消毒ができるように、PTA特別会計で購入させてもらうことにしました。インフルエンザなどの菌は、その菌がついた手で食事をすることによって体内に入ることが多いので、そうした対策をしたいと考えました。アルコール消毒が合わない可能性がある子がいましたら、担任まで連絡をください。また、ランドセルの中に使い捨てのマスクを入れておいてください。咳が止まらない子には担任の方からマスクをつけるように声掛けをしていきます。こうした予防策をみんなで守ることは、学校での流行を抑える有効な手段となります。ご協力ください。



6年生修学旅行に行ってきました。

～「楽しく」「協力」をキーワードに「思いやりの心を持って」～

先週の6日(木)・7日(金)の二日間、京都方面とキッザニア甲子園に6年生全員が参加して、修学旅行が行われました。

一日目、この日の京都は、紅葉シーズンを前にして、修学旅行生と国内外の観光の方が重なり、予定通りとはいえ、かなりの人出でした。

そんな中、まず金閣寺では鏡湖池に多少色づき始めた紅葉に浮かび上がる金閣寺が映え、その前で班別に記念写真を撮りました。屋根の上の鳳凰も金箔で綺麗になっていて、「あれだけの金箔を貼るのは大変だなあ。」と感想をもらしている子もいました。南天の床柱で有名な夕佳亭(せっかてい)の見学後、立命館の平和ミュージアムと立命館大学の学食を目指し、班別に行動をしました。しおりには地図もあり、道を間違えてしまう班はなかったようですが、地図では距離感がつかめず、不安になると京都在住らしき人やガードマンの方に「立命館大学はどちらですか。」と聞きながら、歩を進めていました。結構慎重に行動をする子どもたちでした。平和ミュージアムでは、15年戦争や現代の戦争を通して平和について考えるたくさんの資料から、



事前学習で確かめたいと思っていたことを熱心にメモをとる姿がありました。説明ボランティアの方から「調べたいことをきちんとしおりに書いてきていて、熱心に見学されていますね。感心します。」と言っていたいただきました。また、大学の学食ではあらかじめ決めてあったメニューを注文する子が多い中、「あっ、こっちも…」とデザートを増やしている子もいました。おいしくて、安くて、ちょっぴり学生気分を味わいました。そして、班行動ゴールの龍安寺では、枯山水の中にある15個の石をみつけていました。はじめは13個、14個の石しか数えられないのですが、15個の石が見える場所を探すことで、教科書に出てきた「そのころ差別されつつもすぐれた技能を持った人々によってつくられたといわれています。」という文を思い浮かべながら眺めた子もいたと思います。

その後は、鶯張りとお政奉還を行った所で有名な二条城、名前では銀箔を想像させる銀閣寺、京都の町が一望できる清水寺の舞台からの眺めをクラス単位で見学し、音羽の滝の水をいただいてから（買い物の時間確保のために飛ばした班もありました）、待ちに待った松原通での買い物に出かけました。人気のお買い物はやはり生八つ橋で、お店の人の呼び込みにどのお店に入るか悩む姿がありました。また何か自分の記念になるものを探す姿や、お家の方と相談し頼まれた漬物



や唐辛子を買う姿もありました。どの班も時間ぎりぎりまで買い物を楽しんでいました。そして、旅館日昇館につき、部屋長会、夕食、入浴、自由時間と過ごしていきました。夕食の時はテンションが上がりすぎて、予定時間を延ばしてもたくさんの残し物をする姿に、担任の先生からお灸をすえられる場面もありました。言われると素直に話を聞ける子どもたちですが、自分たちで注意することができ

ない今年の6年生の弱さを見る場面でした。就寝時間を過ぎても各部屋からは話し声が聞こえましたが、修学旅行の一番の思い出に残る時間でしょうから「寝ている人のことも考えてね。」と声をかけ、あとは子どもたちに任せました。

二日目は、朝食後旅館を出発して、キッザニア甲子園を目指しました。渋滞もほとんどなく、広い駐車場に一番乗りで到着しました。係りの方の説明を聞き、集合時間と集合場所を確かめ、午前中は班行動、午後は個人で職業体験をしました。この日の団体は小学校7校、中学校4校で、人気のブースは60分待ちで、予約を入れて比較的空いているブースへ行くのがいいのですが、待ち時間・予約の制度をうまく利用できなかった子は、3～4個の体験で終わっていたようです。帰りのバスの中で聞くと多い子で7個の体験をして帰ってきていました。携帯電話のスマホをかりた子ほど体験数が少ない傾向にあり、ここでも何を目的にしているのかを自分で考え行動することが課題として見えてきました。

こうして修学旅行はあっという間に終わりました。昇降口の前に並ぶ子どもたちの表情は、ほっとする顔やもっと時間がゆっくりと過ぎてほしかったという顔が入り混じっているように感じました。キーワードにしていた「楽しく」「協力」そのための「思いやりの心を持つ」という目的は十分に達成できた修学旅行でした。

